

## 令和5年度学校評価

本年度の 重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 規範意識を高め、健全で活力ある校風を育成する。</li> <li>2 学習習慣確立へ向けての取組を行い、学習に対する意欲向上を図る。</li> <li>3 環境の美化に努める。</li> </ol>		
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
管 理 職	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教職員の健康障害防止</li> <li>2 勤務時間の適正管理</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 在校時間等の状況記録の集計結果等を安全衛生委員会等で確認し、1か月間の時間外労働が80時間を超える教職員に対して、そのつど面接指導の希望の有無について確認する。</li> <li>2 在校等時間を客観的に把握し、時間外在校等時間の上限（1か月45時間、1年360時間）が遵守できるよう業務改善・分担の見直し等を行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 毎月の安全衛生委員会で在校時間等の状況報告を行い、情報を共有した。面接指導を希望した職員はいなかった。</li> <li>2 新型コロナが5類になり通常の学校活動が戻ったことで、時間外在校等時間は、昨年度よりやや増加傾向となった。</li> </ol>
教 務 部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善</li> <li>2 「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法の研究</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ICT機器の活用をさらに進め、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。</li> <li>2 ①粘り強い取組を行おうとする側面、②自らの学習を調整しようとする側面という2つの側面を評価できるようなレポート・振り返りシートを作成する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒用一人一台タブレットの活用は徐々に進んでいる。特にロイロノートスクールは日常的に使われている。</li> <li>2 各教科でレポート・振り返りシートといった定期考査以外の評価方法が積極的に使われるようになってきた。信頼性・妥当性を高めることが今後の課題である。</li> </ol>
総 務 部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 外部に対する発信力の深化</li> <li>2 生徒の自主性の育成</li> <li>3 P T A活動の効果的な発信</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校案内、ホームページ、学校説明会の内容を深め、本校の魅力を効果的、かつ継続的に外部へ伝える。</li> <li>2 式典・朝礼、防災訓練および学校説明会等の行事を通して、生徒が自主的に行動できる力を養う。</li> <li>3 1月に行われる名南地区P T A研修会の発表校として、発表内容を検討し、本校のP T A活動の魅力を効果的に伝える。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校案内の刷新、学校行事等ホームページの定期更新、学校説明会での部活動公開を通し、中学生はじめ外部に魅力が伝えられた。</li> <li>2 教員の声掛けもあり、生徒が時間を意識した集合を心掛けられるようになった。</li> <li>3 P T Aと連携し、本校の活発なP T A活動を効果的に伝えることができた。</li> </ol>
生徒指導部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 基本的な生活習慣の確立</li> <li>2 学校安全の推進</li> <li>3 基本的人権の尊重</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 正門前で交通整理をし、制服の正しい着用と遅刻をしない登校指導を行う。</li> <li>2 交通事故の防止、情報モラルの向上など、わかりやすい啓発方法を工夫する。情報モラルについては、機会をとらえた指導を行い個人情報に対する意識を高める。</li> <li>3 人権週間をはじめ、機会を捉えて人権問題を意識させる。また、いじめ防止基本方針に基づく取組を円滑に進める。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 多くの先生方の協力を得ながら、遅刻はもとより交通マナー・身だしなみ等の改善を進められた。</li> <li>2 交通安全や情報モラル等の注意喚起を行ったが、まだ不十分である。</li> <li>3 特にいじめ等に関して、状況に応じて迅速かつ適切に行動することができた。</li> </ol>

項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
進路指導部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 進路情報の収集と積極的な発信</li> <li>2 「学びの基礎診断」の積極的な活用</li> <li>3 就職希望者に対するきめ細かく計画的な指導</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学年に応じた情報の提供に努める。また、新教育課程での入試に関連する情報を積極的に入手し、生徒に提供する。</li> <li>2 「学びの基礎診断」受験前後に受験の意義や結果等の見方について外部講師による講演を行い、自己分析に役立てる。また、結果の蓄積を行うことで、進路結果との相関を調べていく。</li> <li>3 職業安定所の就職支援ナビゲーターを活用して生徒の就職指導に当たる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 時期に応じ適切に情報を提供できた。必要な情報を教員や生徒が活用しやすい形で提供することが課題である。</li> <li>2 事前、事後指導として外部講師による講演会を実施した。意義を理解させて取り組ませることができ、より深い自己分析ができた。</li> <li>3 就職希望者に対し、企業情報の提供や面接指導を実施し、きめ細かな指導を行うことができた。進路指導部内で就職に関するノウハウを引き継いでいく必要がある。</li> </ol>
保健部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 健康課題の早期発見、早期対応</li> <li>2 生徒主体の美化・保健活動の推進</li> <li>3 生徒自身の問題解決力の成長を促す相談活動の実施</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 朝のST時、健康観察を確実に実施する。観察結果の状況を学年会等でフィードバックし、職員全体で健康観察を行う。</li> <li>2 清掃道具を充実させ、生徒の清掃に取り組む意識を高める。生徒委員会活動を活性化させ、生徒主体で校内美化を図る取り組みを実施する。</li> <li>3 一つ一つの相談事案に対して丁寧に情報共有、連携しながら相談活動を行う。また、外部機関との連携、協働を図り、生徒が自身で問題を解決できるようサポートする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 概ね良好で、習慣化できている。感染症流行時、各クラスの状況を集約し、早期対応ができた。</li> <li>2 引き続き校内美化は大きな課題である。委員会活動を通じ、清掃道具の整理整頓など清掃環境を整え、校内美化に努めたい。</li> <li>3 関係職員で情報共有と連携しながら相談活動を行うことができた。校内では対応しきれないケースは、SCや外部機関との連携強化が必要である。</li> </ol>
生徒会部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒の主体的な活動を通じた自主的、実践的な態度の育成</li> <li>2 部活動や学校行事における安全配慮の徹底</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ホームルームや委員会活動、部活動を通じて、生徒が集団や社会に参画できる場を設定する。各行事において、生徒会執行部、専門委員などが主体的に立案し、意見を出しながら多様な考えを学べるようにする。</li> <li>2 熱中症など、生徒の安全に十分考慮する。専門委員会や部顧問会議等を活用し、生徒と職員とで問題点や課題を見つけ改善して部活動や学校行事を運営する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 文化祭や体育大会では生徒会執行部を中心に生徒の意見を取り入れながら実施することができた。委員会活動においても、生徒の意見を取り入れた取り組みを実施したい。</li> <li>2 体育大会や部活動で熱中症対策として給水所の設置や氷の補充を行った。来年度の体育大会は空調設備のある学校外の施設で実施する予定である。</li> </ol>

項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
図 書 部	1 学習・資料センターとして快適に利用できる環境作り 2 生徒の図書館利用の促進 3 総合的な探究の時間の企画立案	1 図書選定、広報活動、環境整備を展開し、資料や環境の充実・整備を進める。 2 新入生への図書館オリエンテーション、図書委員会を活用した図書館資料の紹介等の活動により自主的な図書館利用を促す。 3 図書部会および総合委員会で総合的な探究の時間の内容を精査し、教科の目標を達成できる教材や内容について検討を行う。	1 幅広い分野の図書選定と、『図書だより』『新着図書情報』『今日の読み物』等を定期的に発行して広報活動に努めた。 2 入館者数及び貸出冊数は前年度の合計を上回っており、生徒の主体的な図書館利用が促進できている。 3 昨年度までの実施内容を踏まえて新たに採用した内容を実施しつつ、改めて課題点を整理し検討を進めている。
総合評価	I C T機器の授業や校務への活用、熱中症対策、生徒の健康管理等様々な課題に対して取り組むことができた。		